令和３年３月１２日（金）№.４５８
グリットを高め　いつも仲間とともに　夢のある学校

里中だより

川口市立里中学校
川口市里６２１番地
TEL　０４８-２８２-５７０８
さわやか相談室　284-1010
１年201名　２年212名 ３年176名
http://www.sato-chu.com/

巣立っていく第４３期生、伝統のバトンを引き継いだ第４４期生、第４５期生へ

校　長　　荻上　晃司

４月当初より里中だよりやホームページを通してお伝えしていますが、私の教育信条は、やり抜く力（グリット）の育成です。やり抜く力は、才能を超え、将来大きな結果を出すと確信しています。３月１１日の第４３期生校長講話では、やり抜く力について、次のような話をしました。

『校長講話一部抜粋』

はじめに、受験勉強お疲れ様でした。長く、辛い入試と向き合う時間が終わりました。疲れた心と体を休め、エネルギーを蓄えて、次のスタートに向かってほしいと思います。

学校は、上級生が下級生に範を示し、その姿を下級生が受け継いでいくところです。皆さんは、学年目標【やり切る!! TEAM43～想いを大切にする１年間に～】を胸に秘め、コロナを言い訳にせず、学習や部活動、日常の生活（登校時間の厳守、清掃活動、挨拶等）、委員会活動、体育祭、地域美化活動等に最上級生として全力を尽くし、後輩に里中の伝統のバトンをつないでくれたことに感謝しています。

さて、「二兎を追う者は、一兎をも得ず」ということわざがあります。「同時に２つのことをしようとすると、どちらも得られず失敗する」の意味を持つことわざです。しかし、間もなく母校を巣立っていく皆さんに、「少なくとも三兎を追え」という言葉を贈ります。上級学校等で学びを続ける皆さんには、学習、部活動（習い事）、学校行事等の少なくとも３つは全力で取り組んでほしいという願いを込めています。一人前の社会人になれば、同時に複数の仕事をこなし答えのない課題に挑むことは日常茶飯事で、経験からそれが仕事の本質だと考えるからです。

「三兎を追う」うえで必要となる力が、やり抜く力です。評論家の白取春彦氏が『頭がよくなる逆説の思考術』（ディスカヴァー）という本の中で述べている言葉（要約）を紹介します。

〇最後までやり通すことだけが、自分の経験として蓄積される。
〇たとえ失敗であったとしても、自分にしか見えない確実なステップになる。あるいは、失敗だったからこそ、次に向かえる。自分の手で受け取った失敗の重さは、決して自分を後退させることがない。
〇下手でもいいから、とにかく今の力でやり遂げること。ただ夢中に、あらん限りの力を注いで、おしまいまで手を尽くすこと。何事に対しても、ほんの些細にしか見えない事柄に対しても。

※やり抜く＝やり切る＝やり通す＝やり遂げる

第４３期生の皆さんが、どんな壁にぶつかっても困難に立ち向かい、諦めず、やり抜く力を持ち続け、希望に満ちた人生を歩んでいかれることを願っています。

１年後、２年後に今度は第４４期生、第４５期生の皆さんが卒業していきます。

第４４期生の皆さんは、一度きりの中学校生活の最後の１年を迎えます。来年の３月１５日の卒業式をどんな気持ちで迎えているかは、この１年間の過ごし方にかかっていると思います。学習や部活動、委員会・係活動の仕事、学校行事等をやり抜き、皆さんが目指してきた過去最高の３年生として、下級生に範を示してくれることを期待しています。

第４５期生の皆さんは、半年後に中学校生活の折り返し地点を迎えます。中学校生活を充実したものにするために、この１年間の学びを生かして、２年目にどれだけ自分の力を伸ばせるか様々なことに挑戦してほしいと思います。コロナ禍で、部活動体験等の小中連携事業が中止や縮小となりました。不安でいっぱいだった入学当時を思い出し、第４６期生を温かく迎える等、目配り気配り心配りのできる上級生であってほしいと期待しています。

４月に本校に着任して１年が経とうとしています。保護者や地域の皆様にご支援いただき、年度末を迎えることができました。ありがとうございました。これからも教職員が一丸となって、より良い学校づくりに力を尽くしてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。